



# 栄地区地域計画

(2024 年 4 月～2028 年 3 月)

「みんなで支え合い、幅広い世代が共存していく栄地区」  
～栄え、栄えゆく、栄地区～

栄地区地域づくり協議会

## I 栄地区（栄小学校区）の現状と課題

### 1 概要

（自然環境・インフラ）

- ◆ 栄地区（栄小学校区）は、『磯山町，磯山一丁目，磯山二丁目，磯山三丁目，磯山四丁目，東磯山一丁目，東磯山二丁目（磯山団地，磯山雇用促進住宅及び京田自治会を除く。），五祝町，秋永町，中瀬古町（伊勢鉄道株式会社軌道敷以西を除く。）』からなる、人口 4, 1 2 1 人、世帯数 1, 8 9 7 世帯の地区で、行政上の栄地区（栄地区市民センター所管区域）の一部となっており、
- ◆ 鈴鹿市の東南端に位置し、伊勢湾と中ノ川・堀切川に囲まれた地域及び両河川の沿岸の地域であり、標高は概ね 0～10m で津波浸水が予測される低地が広がり、西部は郡山地区につながる高台となっています。海岸と河川に囲まれた低地が多いことから、津波、河川や内水の氾濫による水害等の自然災害の被害を受ける可能性が高い地域です。
- ◆ 市街化調整区域に位置し伝統的な農村集落の良さを残した内陸部の小規模集落、高度成長期に土地の売買等による住民の移動や農地の宅地化等により新旧住民が混在する海岸部の国道 2 3 号線・近鉄沿線地区、さらに高度成長期に新規開発された小～中規模の住宅団地地区から構成されています。このため、農村的共同意識の維持されている地域、新旧住民が混在する地域、高度成長期にできた住宅団地のそれぞれで、住民の地域との距離感、連帯感等の意識も微妙に異なっており、自治会の運営等にも違いが見られます。
- ◆ 鉄道、道路の状況は、東側に近鉄と国道 2 3 号線が西側に県道上野鈴鹿線が、さらに西端に伊勢鉄道が南北に走り、北端に磯山バイパスが東西に走り、西部には C バスも運行されています。近鉄沿線を除き、車が主要な移動手段となっており、高齢化の進展による運転免許返納等が加速すれば、食料品の調達、病院への通院などが難しくなってきます。

（生活環境）

- ◆ 日常生活については、食料品等の宅配や一部地区には訪問販売もあり、コンビニも点在していますが、スーパーマーケットが閉店となり、特に生鮮食品などの買物環境が悪化しています。
- ◆ 大規模な工場や店舗はないものの、中小の工場や作業所が点在し、農業（委託等により一部集約化）、飲食店などサービス業も一部にみられますが、住民の大多数は地区外に就業しています。
- ◆ 医療については、一部診療所の廃業があったものの、地区内には歯科も含め数か所の診療所が開設されています。基幹的な病院へは車では 1 5 ～ 3 0 分程度で行けますが公共交通機関では経路も複雑で時間もかかるなど利便性は良くない状況にあります。

- ◆ 人口は5カ年で約5%減少しており、一部で住宅のスクラップアンドビルドやミニ開発の動きもあるものの、地区全体としては減少傾向が続くとみられます。  
また、生産年齢層は減少し老年人口が増えてきており、後期高齢者人口増等により要介護者や認知症の増加が見込まれます。一方で、少子化については、栄小学校の入学者数推計では当面は小規模校として維持できる状況にあ
- ◆ 文化・観光等の地域資源は、特出したものは見られないですが、海岸線の初日の出、中ノ川下流のアサリとり、秋永の湧水など一部の地区住民や来訪者に親しまれているものもあり、田園地帯の広がる景観もまだ健在です。

#### (市民活動)

- ◆ 自治会等の活動については、12の自治会がその地区に応じた活動を展開していますが、主体的・継続的に活動できる担い手は減少傾向にあり、単年度持ち回り形態が増加しています。その他の地域づくり構成団体においても、コロナ禍の影響や少子化・高齢化の影響を受けつつも、それぞれの目的に向けた継続的な活動が行われていますが、少数の固定的なコアメンバーに依存して活動を維持している団体が多く、総じて担い手の確保が段々難しくなっ
- ◆ 生涯学習活動は、栄公民館が新築されたこともあって増加傾向にありましたが、コロナ禍の影響や少子化、高齢化などにより停滞気味になってきました。また、一部集会所においてもサークルやふれあいいきいきサロンの活動が定着しており、自治会の範囲を超えた交流も行われています。
- ◆ 子育て環境については、青少年育成町民会議、放課後児童クラブが活動していますが、地区の子ども会は会員数の減少などで活動に苦戦しているところもみられます。また、公立の幼稚園は入園児童数の減少により休園となりま

## 2 5年前との意識の変化

#### (住民アンケート調査概要)

調査期間 令和5年11月1日～令和5年12月22日

配布数 1591 (栄地区公報配布全世帯)

回答数 617

回収率 39%

(前回調査 平成31年4月)

(グラフの地域別)

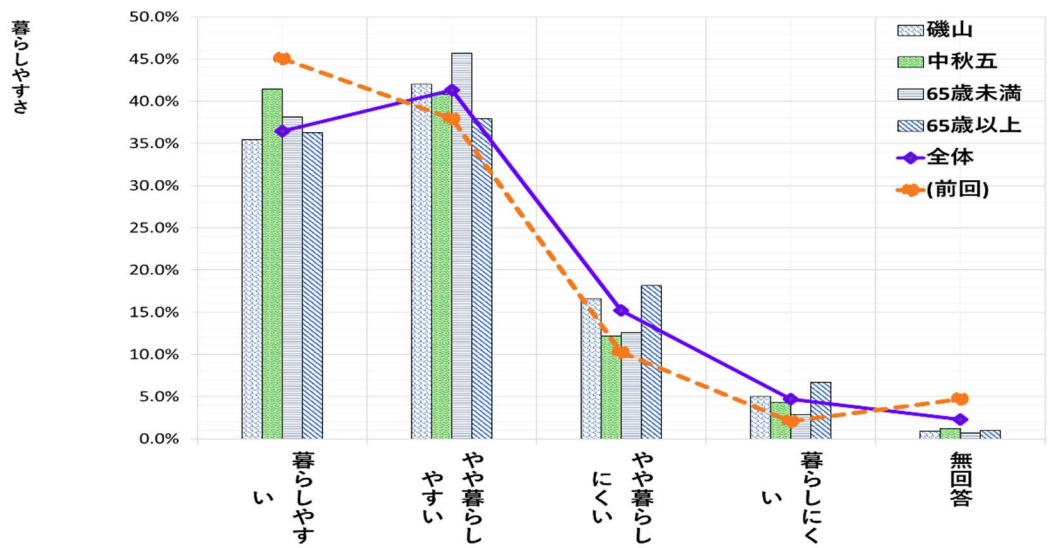
磯山 : 磯山及び東磯山

中・秋・五 : 中瀬古・秋永・五祝

#### ・暮らしやすさ

「暮らしやすい・やや暮らしやすい」: 77.8% (前回: 83.0%)、「暮らしにくい・やや暮らしにくい」: 19.9% (前回: 12.3%) で、前回調査と比べて、特に「暮らしやすい」が10%近く減少しています。5年前との比較では「暮らしやすくなった」: 5.2%、「暮らしにくくなった」: 24.0%と、全体として暮らしやすいと感じている住民が多いものの、以前より暮らしにくくなっていると感じている住民

が増えています。

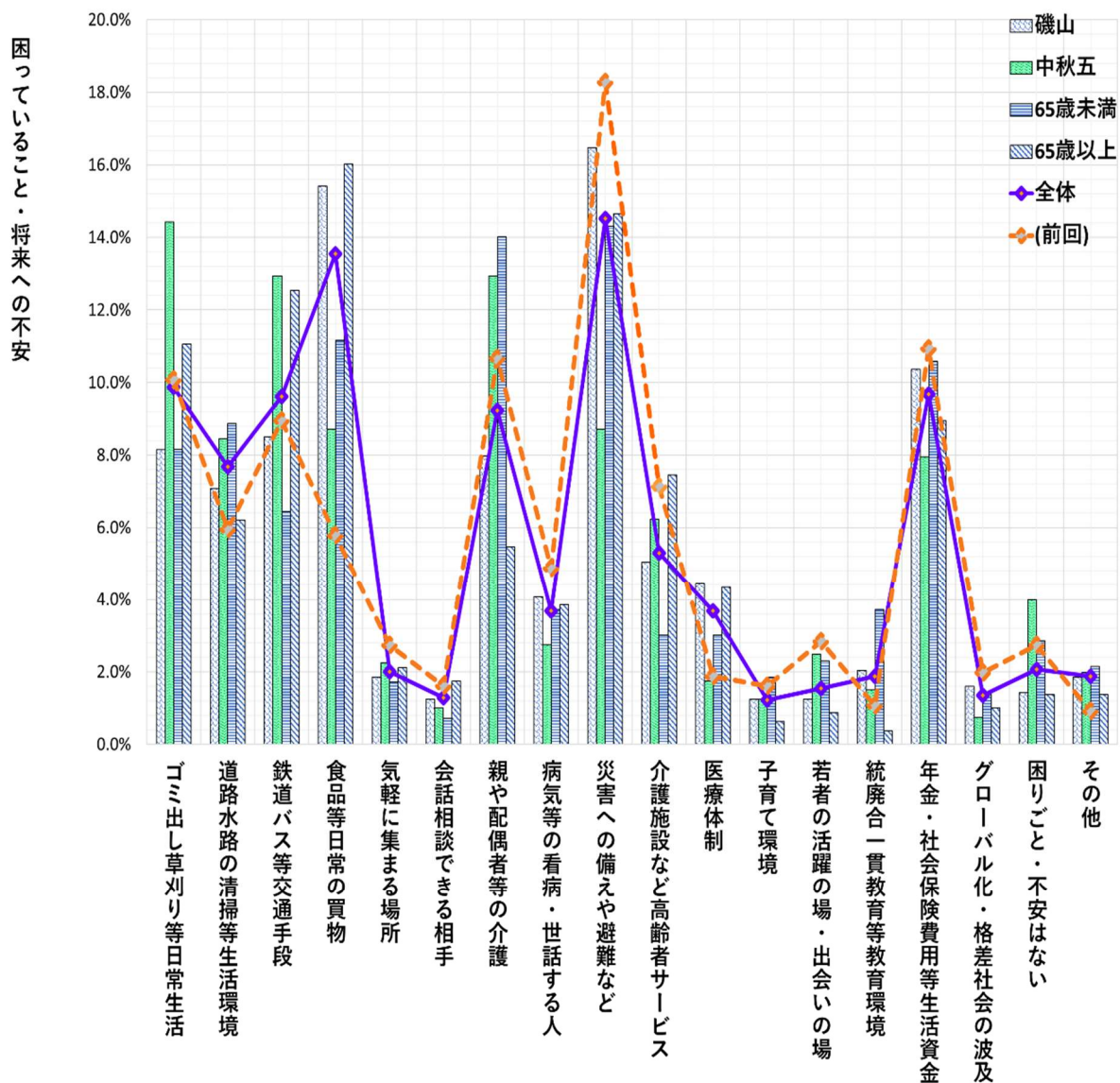


・日常生活で困っていたり、不安を感じていること

今回調査では「災害への備えや避難など」との回答が 14. 5%と前回同様多かったものの、「食品等日常の買い物」：13. 5%、「ゴミ出し草刈り等日常生活」：9. 9%が前回調査より大幅に増えており、日々の生活についての困りごとや不安を感じている住民が多くなってきました。

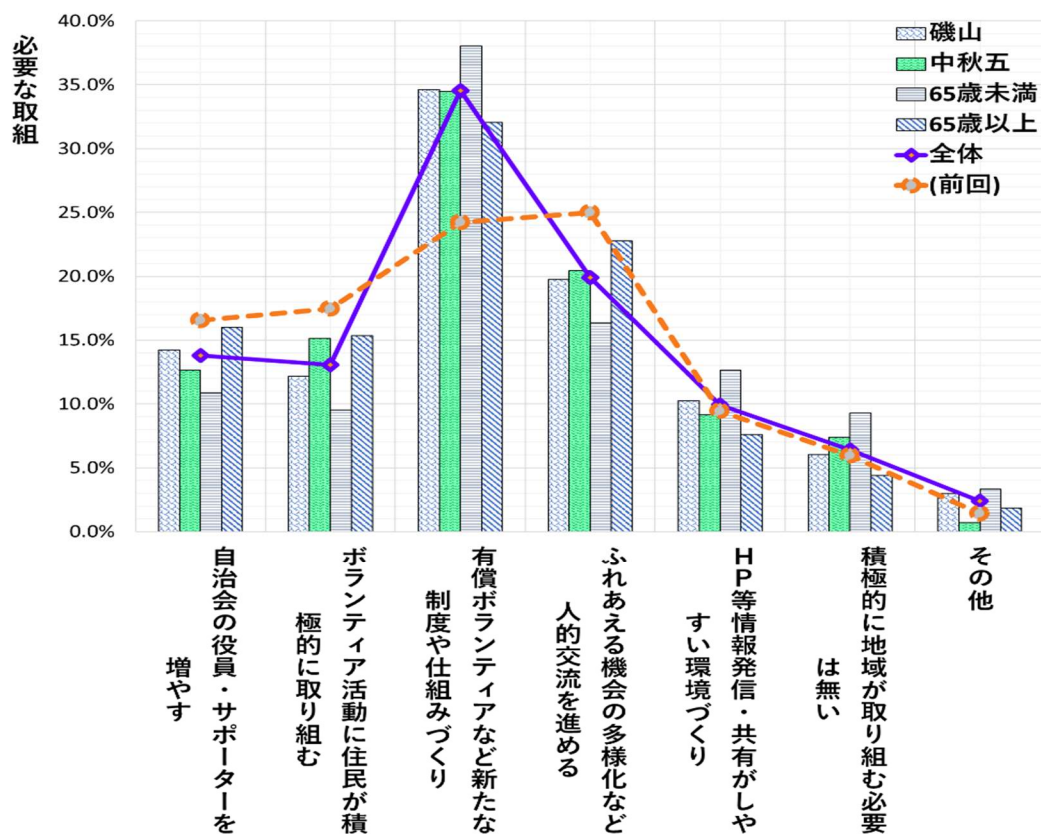
磯山地区では、多い順に、「災害への備えや避難など」：16. 5%、「食品等日常の買物」：15. 4%、「年金・社会保険費用等生活資金」：10. 4%となり、中瀬古・秋永・五祝地区では「ゴミ出し草刈り等日常生活」：14. 4%。「鉄道バス等交通手段」：12. 9%、「親や配偶者等の介護」：12. 9%となっています。

| 順位 | (前回)           |       |   | (今回)           |       |
|----|----------------|-------|---|----------------|-------|
| 1  | 災害への備えや避難など    | 18.3% | → | 災害への備えや避難など    | 14.5% |
| 2  | 年金・社会保険費用等生活資金 | 10.9% | ↘ | 食品等日常の買物       | 13.5% |
| 3  | 親や配偶者等の介護      | 10.7% | ↘ | ゴミ出し草刈り等日常生活   | 9.9%  |
| 4  | ゴミ出し草刈り等日常生活   | 10.1% | ↗ | 年金・社会保険費用等生活資金 | 9.7%  |
| 5  | 鉄道バス等交通手段      | 8.9%  | → | 鉄道バス等交通手段      | 9.6%  |
| 6  | 介護施設など高齢者サービス  | 7.1%  | ↘ | 親や配偶者等の介護      | 9.2%  |
| 7  | 道路水路の清掃等生活環境   | 5.9%  | ↘ | 道路水路の清掃等生活環境   | 7.7%  |
| 8  | 食品等日常の買物       | 5.8%  | ↗ | 介護施設など高齢者サービス  | 5.3%  |



#### ・暮らしやすい地域づくりのために必要な取組

今回調査では、「有償ボランティアなど新たな制度や仕組みづくり」が34.5%と前回（24.2%）から大幅に増加し、前回多かった「ふれあえる機会の多様化など人的交流を進める」（今回：19.9% 前回：25.0%）と逆転しました。また、「行政と住民個人で解決すべきことで積極的に地域が取り組む必要は無い」という回答も6.4%ありました。



#### ・有償ボランティアによる生活支援サービスについて（今回調査での追加項目）

「検討を進めるべき」：57.4%、「すぐにでも取り組むべき」：23.7%との結果となり、8割以上の住民が必要を感じている状況となっています。  
必要な生活支援サービスとしては、多い順に次のような結果となりました。

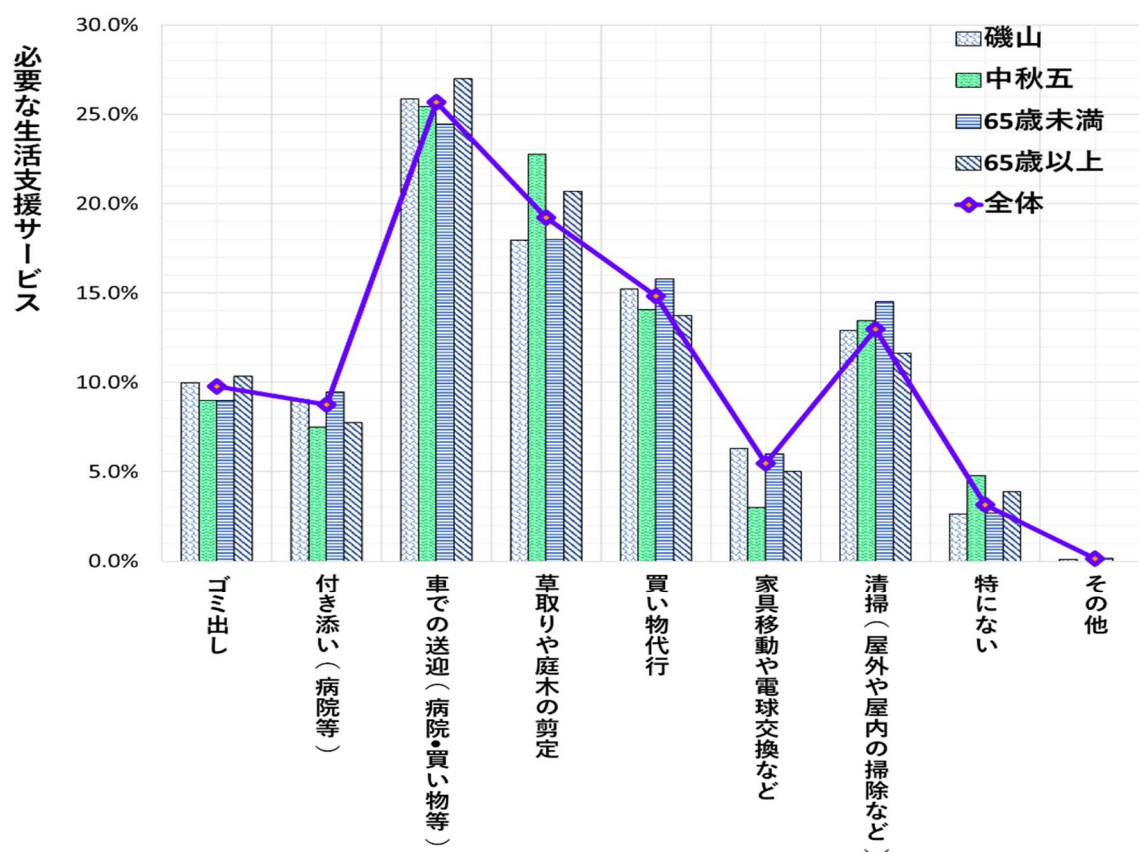
- ①車での送迎（病院・買い物等）：25.7%
- ②草取りや庭木の剪定：19.2%
- ③買い物代行：14.8%
- ④清掃（屋外や屋内の掃除など）：13.0%

#### ・地域づくり活動への参加意向

しかしながら、これらの地域づくり活動への参加意向は、

「参加できない」：45.4%、「検討する」：29.7%、「参加したい」：

と高いとはいえない結果となりました。今回は理由について特に回答を求めています。自由記載欄には「働いていて（現状では）参加できない」、「高齢のため難しい」といった記述が多くみられました。



### 3 活動の持続的な展開のために

- ◆ 当地区は、従来からの行政機関の地域割りによらず、高度成長期の人口増加により新設された小学校区で地域を分けたため、消防・警察や自治会連合会、民生委員児童委員協議会など従来からの組織と連携が取りにくく、住民にも組織間の関連などがわかりづらくなっています。このような状況を無くすための取り組みを進める必要があります。
- ◆ 「地域づくり」は地域づくり協議会が中心になって市と協働して行うものとされていますが、市のどこと、どのように“協働（一緒に汗をかいて地域づくりに取り組む）”していくかなど、協議会としても鈴鹿市まちづくり基本条例が目指す住みよい鈴鹿市の実現のための市との協働のあり方を検討していく必要があります。

## Ⅱ 地域づくりの目標

(めざす姿)

「みんなで支え合い、幅広い世代が共存していく栄地区」

～栄え、栄えゆく、栄地区～

「暮らしやすさ」を維持、向上させる持続的な取り組みを、“今から”、“わたしたちができる範囲”で、“徐々に”進め、地域 みんなが気軽に言葉を交わし、お互いに気遣いあい、ともに心豊かに暮らせる栄地区、10～20年先の世代でも住んで良かったと思える栄地区をめざします。

## Ⅲ 目標達成に向けての取り組み

### 1 地域づくり活動の取り組み方針

- ◆ 少子高齢化の進展、格差の拡大、居住者の多様化（多国籍化）、多様な情報が飛び交うネット社会化などの避けられない環境の変化の中で、暮らしやすい地域を維持し発展させていくには、今のうちからコミュニティの「質」を維持し高めていく継続的な取り組みを進めていく必要があります。
- ◆ とすれば「ギスギスした」人間関係になりがちな社会経済環境の中で、地域住民がいろいろな機会や場面で重層的に触れあい、“緩く”つながり合うことにより、お互いに気遣いあえる関係を構築することが地域力の源泉となり、住民の不安が大きい地震等の災害に対しても力を発揮し、心豊かにくらせる地域社会を作ることができるものと考えます。
- ◆ このような考え方のもとで、住民アンケート調査で多くの方から指摘された日常生活上の「困りごと」や地震・津波風水害などへの「不安」、地域で必要な取り組みとして指摘された「有償ボランティアによる住民福祉サービス」などの取り組みを進めていく必要があります。

(人口減少時代での担い手の確保)

- ◆ 一方で、高齢化により団塊の世代の地域活動からのリタイアが進み、長寿化や年金支給の高年齢化などによる高齢者の就業率の高まりなどから、地域活動の担い手として期待されている60～75歳の地域の人材は減少傾向にあり、地域づくり協議会、自治会や各種団体（消防団・地域のNPO団体など）の担い手探しも難しくなってきました。

- ◆ このため、将来に向けて、公共的な業務を地域（住民）に移転してきた近年の流れを再検討するとともに、地域活動への参加の仕組みを変えていく（例えば、有償ボランティアの定着・参加態様の単純化や短時間化・仲間づくりやコミュニケーションの場としての PR など）ことなどについての検討が必要

（活動を進める上での留意点）

- ◆ 歴史的・地理的背景から当地区は概ね3つに分かれており、事業実施にあたってはそれぞれの地域特性にも留意して進めていくこととします。
  - ・市街化調整区域に位置し伝統的な農村集落の良さを残した内陸部の小規模集落
  - ・住民の移動（流入）等により新旧住民が混在する海岸部のR23・近鉄沿線
  - ・高度成長期に新規開発された小～中規模の住宅団地
- ◆ 地区社会福祉協議会の廃止方針に従い、令和6年度中に栄地区社会福祉協議会の取り組みを当協議会へ移行する方向で協議を進めていますが、表裏一体の関係にある民生委員児童委員協議会は従来の地域割りのまま残されています。このため、移行にあたっては、地域福祉事業の実施などで住民に不安やわかりづらい状況がおきないように留意しつつ進めていくこととします。
- ◆ 各取り組みとも地域に継続的に受け入れられるものとしていくため、行政等の制度改変、他地域の活動状況、住民の意向の変化等に対応した柔軟な事業の新設・改廃ができるような運用を心がけます。このため、役員会を中心に事業の進捗状況を管理するとともに、振り返りと改善の手順、コミュニティを対象とする適切な成果指標の抽出などについても検討を進めます。

## 2 部会別取り組み概要（令和6年度～9年度）

### 防災部会

#### ・地震防災訓練の継続的实施

南海トラフ地震（津波）に備えて、東日本大震災の記憶を風化させないことを主眼に置いた地震防災訓練を継続して実施していきます。

#### ・風水害からの避難を考える住民交流イベントの開催

近年各地で多発している集中豪雨など風水害を念頭に置いた避難訓練を、子どもや高齢者も楽しく参加できるイベントとして実施し、風水害の啓発とともに世代間の交流を進めます。

- ・ 迅速な避難行動のための気象や災害に関する情報の活用

川と海に囲まれた当地区で自然災害の危険から身を守るため、気象についての理解を深め、いざというときに住民自身で迅速・的確に判断し避難行動が取れるよう、関係情報の提供、指針・マニュアルの策定などの取り組みを進めます。

- ・ 災害弱者のサポート

災害弱者へのサポートについて、当面、風水害を念頭に置いた支援策などについて検討を進めます。

## ふれあい支え合い部会

- ・ 地域の支え合い活動の取り組み

みんなで暮らしやすい地域を作っていく活動として、生活弱者に対する日常生活上のサポートなど、有償ボランティアによる「地域の支え合い活動」の取り組みを進めます。

- ・ 認知症等高齢化に伴う健康対策

高齢化が進むなかで健康を保つための情報提供や支援を行うとともに、みんなが認知症等の高齢化に伴う変化について理解を深め、地域で一定のサポートができる取り組みを始めます。

- ・ 「さかえーる教室」の開催

子どもたちが地域社会で見守られ豊かで 健やかに育まれる環境を作るため、地域の皆さんが子どもたちと一緒に勉強、スポーツ、文化活動などを行う放課後子ども教室「さかえーる教室」を継続的に開催しま

- ・ ふれあえる機会の創出

お互いに気遣いあえる仲間を増やしていくため、ふれあいサロン・生涯学習サークル・地域づくり活動など、新たな出合いや3世代交流も念頭に置いた多様なステージの住民のふれあえる機会をつくりま

## 環境整備部会

- ・ 有償ボランティアによる環境整備

地区の景観維持や環境保全、防犯などの観点から、きめ細かな対応が難しい公共的な場所の環境整備を地域の住民が「有償ボランティア」で行える体制をつくりま

- ・ 試行事業の実施地区拡大

木鎌地区で試行している有償ボランティアによる通学路等の草刈り事業のノウハウを活用し、地区全域で草刈り以外の環境整備も含めて対応できるよう検討を進めます。

## 企画運営委員会

- ・ 地域づくり活動の啓発・情報発信

地域の多くのみなさんに地域づくり活動を理解し参加いただくため、勉強会・イベントや全戸配布の「地域づくり便り」などを活用して普及啓発活動を実施し、情報発信・共有を進めます。

- ・ 研修等による人材育成

少子高齢化など社会経済環境に応じた地域づくりを進めるため、委員・コーディネーター・ボランティアや事務局スタッフ等の研修・交流機会を充実し、地域の変化にも対応できる体制を整備します。

- ・ 事務局機能の強化など体制の充実

持続的な活動を支える事務局機能の強化、協議会と住民をつなぐ「地域づくりコーディネーター」の拡充により、協議会の基盤の確立を目指します。

- ・ 自治会、関係団体等へのサポート

自治会等協議会構成団体等に事務機器や行事等に必要な機材の貸出などを行い、団体の事務の省力化をサポートするとともに、書類作成など事務処理のサポートや共通事務等の集中化などによる人材や経費削減の検討を進めます。